

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	福祉(介護福祉コース)・社会福祉基礎		単位数	2	単位	履修年次	1	年
目標	・社会福祉に関する基礎的な知識を習得する。 ・現代社会における社会福祉の意義や役割を理解する。 ・日本や諸外国における社会福祉の歴史について理解する。							
使用教材	【教科書】社会福祉基礎（実教出版） 社会福祉基礎学習ノート							
評価の観点 ・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度					
	社会福祉の基礎的・基本的な知識を身に付け、社会福祉の意義や役割を理解している。 社会福祉に関する様々な資料や情報を適切に選択して活用し、実習や調査、研究等で考察した過程や結果を踏まえ、その技術を適切に活用している。	現代社会や社会福祉の変化を知り、福祉に関する問題点やこれからの役割について考え、適切に判断できる。 諸外国・日本における課題を考え判断し表現できる。	社会福祉や現代社会の変化に対して関心を持ち、社会福祉の向上を目指して意欲的に取り組んでいる。 諸外国・日本における社会福祉について意欲的に関心をもち、積極的な態度で取り組める。					
評価方法	目標を踏まえ、社会福祉基礎に対する「主体的に学習に取り組む態度」と「思考・判断・表現」については、日々の授業を中心に評価を行います。「知識・技能」については試験をもとに評価します。具体的には、日々の授業態度、提出物、考査等をもとに総合的に判断し評価します。							
学期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い					
2 学期	社会福祉の理念と意義 ・生活と福祉 ・社会福祉の理念 ・人間の尊厳と福祉社会の創造 社会福祉の歴史と社会福祉の課題 ・諸外国における社会福祉		・少子高齢化・地域社会など日本の状況について学習します。 ・社会福祉のあり方や制度との関連性について学習します。 ・「自立」「自律」とはなにか、権利擁護の視点から自立支援の必要性について学習します。 ・諸外国の社会福祉の発展について学び、日本にどのような影響を与えているのか学習します。					
3 学期	・日本における社会福祉 ・伊賀市の高齢者の状況について (伊賀市地域包括支援センターより)		・近代社会福祉が誕生した背景や社会福祉の制度について理解を深めます。					
学習上の留意点	・福祉に関する基礎的・入門的な科目です。単なる知識を学ぶ学習だけでなく、人がひとりの人間として生きていくうえで大切な社会のしくみ、自分自身や身近な人たちが社会的な支援を必要とする人への対応といった心と知識を身につけましょう。							

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	福祉(生活福祉コース)・社会福祉基礎		単位数	4	単位	履修年次	1	年
目標	・社会福祉に関する基礎的な知識を習得し、社会の変化が及ぼす影響について考える力を身につける。 ・社会福祉の意義や役割を理解し、基本的な見方や考える力を身につける。 ・人間関係とコミュニケーションについて基礎的な知識を習得し、対人援助の態度と能力を身につける。							
使用教材	【教科書】社会福祉基礎（実教出版）							
評価の観点 ・評価規準	思考・判断・表現	知識・技能	主体的に学習に取り組む態度					
	社会福祉に関する課題やこれからの役割について考え、それらの課題に対して自分の意見を適切に表現し、処理している。	社会福祉に関する基礎的な知識を身につけ、その意義や役割を理解し、また対人援助に関する様々な技術を身につけ、資料や情報を適切に選択して活用し、処理している。	社会福祉や現代社会の変化に対して関心を持ち、社会福祉の向上を目指して主体的に取り組む態度を身につけている。					
評価方法	目標を踏まえ、社会福祉基礎に対する「主体的に取り組む態度」と「思考・判断・表現」については、日々の授業を中心に評価を行います。「知識・技能」については試験や授業のプリント等から評価します。具体的には日々の授業、提出物、考査等をもとに総合的に判断し評価します。							
学期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い				
2 学期	社会福祉の理念と意義 ・生活と福祉 ・社会福祉の理念 ・人間の尊厳と福祉社会の創造 社会福祉の歴史と福祉社会の課題 ・諸外国における社会福祉 ・日本における社会福祉 生活を支える社会福祉・社会保障制度 ・社会福祉・社会保障制度の意義と役割 ・子ども家庭福祉 ・障害者福祉 ・高齢者福祉 ・生活支援のための公的扶助 ・国民生活を支える社会保障制度			・社会福祉のあり方やそれが制度にどのように関連しているかを学習する。 ・憲法と法律が我々の生活にどのように影響しているのかを学習する。 ・諸外国における福祉の発展が、今日の福祉に繋がっていることを学習する。				
3 学期	人間関係とコミュニケーション ・コミュニケーションの基礎 ・援助における人間関係の形成 ・社会福祉援助活動の概要 地域福祉の進展と多様な社会的支援制度 ・地域福祉の進展と地域の将来 ・多様な社会的支援制度 ・社会福祉の将来と福祉の担い手			・コミュニケーションの意義や役割、技法を学び、実践できる力を養う。 ・地域の福祉について学習し、自ら考えて行動できる力を養う。 ・福祉の役割とは何かを学習し、多様なニーズに対して考える力を養う。 ・「地域みんなでまなび隊」を受講し、身近な福祉活動や社会資源などに気づき自ら行動できる力を養う。				
学 習 上 の 留 意 点	福祉に関する基礎的・入門的な科目です。単なる知識を学ぶ学習だけでなく、生きていくうえで大切な社会のしくみを学習し、社会的な支援を必要とする人への対応ができる知識と技術と心を身につけましょう。							

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	福祉(介護福祉コース)・生活支援技術		単位数	2	単位	履修年次	1	年
目 標	・ 自立を尊重した生活を支援するための介護の役割を理解し、介護に関する基礎的な知識と技術を身につける。 ・ 様々な介護場面において適切かつ安全に支援できる能力と態度を身につける。							
使用教材	【教科書】生活支援技術（実教出版）							
評価の観点 評価規準	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	・ 介護に関する基礎的な知識を身につけ、生活支援についてその意義や役割を理解している。 ・ 基礎的な介護技術を身につけ、様々な介護場面において適切かつ安全に支援することができる。		・ 生活を支援するための介護の方法について自分なりの考えを持ち、かつ意見交換することができる。 ・ 課題レポートにおいて、学んだ内容を自分の言葉で適切に記入することができる。		・ 生活を支援するための介護に対して関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。			
評価方法	目標を踏まえ、「主体的に取り組む態度」と「思考力・判断力・表現力等」については、日々の授業の取り組みを中心に評価を行います。「知識・技術」については試験をもとに評価します。具体的には、日々の授業態度、提出物、実技テスト、考査等をもとに総合的に判断し評価します。							
学 期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い				
2 学期 3 学期	私たちの暮らしと生活支援 ・ 生活支援の理解 ・ 生活支援に向けたアセスメント 自立に向けた生活支援技術 ・ 居住環境の整備 ・ 移動の介護 ・ 身じたくの介護 介護職員からの講話			・ 生活の支援で大切なことは何か学びます。 ・ 介護の場であるベッド周りの環境整備技術について学びます。 ・ 体位変換をはじめとし、歩行・車いす等様々な状況を考え、利用者と状況にあった移動方法の知識と技術を学びます。 ・ 楽しみや社会参加につながる身じたくの意義や目的を考え、自立に向けた介護知識や技術を学びます。				
学習上の留意点	・ 実習中心の授業となり、指定の実習服とシューズが必要です。 ・ 課題レポートが多い授業です。 提出期限を守るなど最低限のルールはもちろん、丁寧にしっかり記入するなど意欲的に取り組みましょう。 ・ 互いに協力し合える関係作りをしていきましょう。 ・ 早く介護ができる優しい心を育てていきましょう。 ・ 放課後の自主練習に積極的に参加し、介護技術を身につけましょう。							

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	福祉(介護福祉コース)・こころとからだの理解		単位数	4	単位	履修年次	2	年
目標	・ 自立生活を支援するために必要なこころとからだの基礎的な知識を身につけ、介護実践に適切に活用できる能力を身につける。							
使用教材	【副教材】こころとからだの理解（実教出版）							
評価の観点 ・ 評価規準	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	・ 生活支援を行う上でのこころとからだの基礎的な知識を理解できている。 ・ 利用者の生活行動についての理解ができている。 ・ 介護技術の根拠となるこころとからだとの関連や人体構造機能について理解できている。		・ こころとからだの理解をふまえた生活支援を行う判断が自らできる。 ・ 利用者の多様な生活を理解し、自立支援を考えるにあたり、適切な表現方法ができる。		・ 介護に必要とされるこころとからだの基礎的な知識について関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。 ・ こころとからだの基礎的な知識を理解し、利用者のこころをふまえた介護の考えを持てたか。			
評価方法	目標をふまえ、「主体的に学習に取り組む態度」と「思考・判断・表現」、については、日々の授業を中心に評価を行います。「知識・技能」については試験をもとに評価します。具体的には、日々の授業態度、提出物、考査等をもとに総合的に判断し評価します。							
学期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い				
1 学期	こころとからだの基礎的理解 ・ こころしくみの理解			・ 健康や人間の欲求とはなにかを考える。 ・ こころとは何かを考え、「学習」「記憶」「思考」「感情」「認知」「意欲」「動機」「適応」について学び、生活支援技術で必要な知識を身につける。 ・ 骨の動き、筋肉の動き、神経の働きを理解し、加齢によっておこる機能低下について理解をする。				
2 学期	・ からだのしくみの理解 生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解 ・ 生活動作に関するこころとからだのしくみ ・ 生活に関するこころとからだの特徴							
3 学期	人間の成長と発達の基礎的理解 ・ 発達とは ・ 老年期の理解と日常生活 ・ 高齢者と健康			・ なぜ、身じたくを整えるのか考え、それに関わるこころのしくみやからだのしくみを学ぶ。 ・ 「加齢」「病気」「障害」によっておこる機能低下について学び、医療職との連携について理解する。 ・ 人間の成長と発達について学ぶ。 ・ 法律から老年期の定義、課題を学び、高齢者の生活を理解する。 ・ 生活習慣病・高齢者に多い病気について学ぶ。				
学習上の留意点	・ 科目「生活支援技術」と連携しています。ここで学習したことは、生活支援技術の授業で行う介護実技や三年次の介護実習で必要となります。しっかりと理解しましょう。							

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	福祉（介護福祉コース）・介護過程		単位数	2	単位	履修年次	2	年
目 標	・人間としての尊厳の保持と自立支援の観点を養う。 ・介護過程の意義と役割を理解する。 ・介護過程を展開する能力を養う。							
使 用 教 材	【副教材】介護過程（実教出版）							
評価の観点 ・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度					
	・介護過程に取り組むにあたって、今までに学習した他教科の知識を活用できる。 ・新しい知識を身につけている。 ・適切な表現方法を用いて介護過程の展開をすることができる。	・事例を適切に読み取り、自身で生活課題を見つけ出すことができる。 ・アセスメント、計画、目標という一定のプロセスに沿って考えることができる。 ・適切な表現をすることができる。	・人間の尊厳や自立支援の考え方を踏まえて、利用者の生活課題を見つめることができる。 ・事例への興味・関心を持ち、授業に主体的に取り組んでいる。					
評 価 方 法	目標を踏まえ、「主体的に学習に取り組む態度」と「思考・判断・表現」については、日々の授業を中心に評価を行います。「知識・技能」については試験を元に評価をします。具体的には、日々の授業態度、提出物、考査等をもとに総合的に判断し評価します。							
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い					
1 学期	介護過程の意義と役割 ・生活支援と根拠にもとづいた介護 ・介護過程の意義 ・介護過程の目的・基本的視点		・生活支援について取り上げ、自立支援と根拠について学ぶ。 ・人間の尊厳・自立支援などの視点をもとに、介護過程の意義と役割について学ぶ。 ・一人ひとりの個性や生活などに視点を向け、サービス利用者に応じた適切な介護の提供には介護過程が必要なことを理解する。					
2 学期	介護過程の展開 ・情報収集とアセスメント ・生活課題と目標の設定		・アセスメントについて学ぶ。 ・事例を用いて情報の解釈・関連づけ・統合化を学ぶ。 ・情報の記載方法を学び、生活課題を見つめることができるようになる。					
3 学期	・介護計画の立案 ・介護計画の実施と評価		・多職種での目標の共有とチームケアについて学ぶ。 ・短期目標・長期目標を理解し、計画の立案を学ぶ。 ・評価方法を理解し、多職種連携を理解する。					
学 習 上 の 留 意 点	・3年次の「介護実習」、「介護過程」で必要な基礎となる知識です。「個別支援計画」を立案するために必要な考え方、表現方法を2年次でしっかりと理解しましょう。							

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	福祉(介護福祉コース)・介護実習		単位数	5	単位	履修年次	2	年
目 標	多様な介護の現場において、学校等で学習した知識や技術を統合させ、介護従事者としての役割を理解する。							
使 用 教 材	なし							
評価の観点 ・評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度					
	利用者一人一人にあったコミュニケーションや基本的な介護の技術が身についている。 暮らしの場を広く知り、知識として身につけている。 利用者の生活と介護の意義や役割を理解している。 多職種協働・チームケアについて理解している。	利用者一人一人を理解し、その人にあったコミュニケーションや基本的な介護技術について、状況を判断し、適切に実践する力を身につけている 状況に応じた介護について自分で考え、適切に表現することができる。	介護現場に対して関心を持ち、意欲的に実習に取り組む事ができる。					
評 価 方 法	目標を踏まえ、実習に取り組む「主体的に学習に取り組む態度」と「思考・判断・表現」、「知識・技術」については、実習の状況から評価を行います。評価については、実習施設からの評価、日誌等をもとに総合的に判断し評価します。「介護総合演習」の授業の授業内容とも連携して評価をします。							
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い					
2 学期	(1) 暮らしの場を広く知り、介護サービスを利用している様々な人に出会う。 (2) 基本的な介護技術の実践をする。		・暮らしの場、介護の場、生活支援の場を学びます。 ・介護サービスを利用する人に出会います。 ・コミュニケーションの大切さを学びます。 ・利用者を知り、利用者の生活を理解する。 ・安全で、快適な暮らしに配慮した介護技術を実践する。 ・対人関係を意識したコミュニケーションをとる。					
3 学期	(3) 地域で生活するために必要な支援体制を理解する。 (4) 多職種協働・チームケアについて知る。		・利用者を取り巻く家族や近隣との関係を知る。 ・利用者を取り巻く社会の支援体制を知る。					
学 習 上 の 留 意 点	・2学期と3学期のみ、合計23日の実習に行きます。 10月からの毎週1日計15日と夏季休業中の8日実習に行きます。 (行事予定により、10月からの日数と夏季休業中の日数が変わることがあります。) ・施設にて行います。身だしなみ、マナーは特に気をつけましょう。 ・どのような人でも快く介護ができる優しい心を育てていきましょう。 ・実習は、ⅠからⅢ期設定があり、3施設に行ってもらいます。							

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	福祉(介護福祉コース)・介護総合演習		単位数	2	単位	履修年次	2	年
目 標	・学習を通して、専門的な知識と技術の深化と総合化を図る。 ・介護実習に主体的に取り組む態度を身につける。 ・介護実習における自己の課題を明確にし、課題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を身につける。							
使用教材	なし							
評価の観点 ・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度					
	介護サービスの種類と介護の内容、介護実習の目的や介護従事者としての役割を理解している。 介護実習における記録を適切に取り、自分の学習内容を振り返り、適切に報告することができる。 介護実習において課題の解決を目指すことができる。	介護実習を振り返り、介護実習における課題の解決を目指して自ら考え、適切に判断・表現することができる。	主体的に学習に取り組む態度 介護現場に対して関心を持ち、意欲的に実習準備に取り組むと共に、実習後の課題解決に積極的に取り組もうとする態度を身につけている。					
評価方法	目標を踏まえ、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」を授業の取組み、提出物の状況から評価を行います。介護実習の報告についても、評価します。また、「介護実習」の授業と連携しコメント、日誌等をもとに総合的に判断し評価します。							
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い					
1 学期	介護実習 ・介護実習における事前学習		・介護実習の意義、目的を学びます。 ・伊賀管内の介護サービスの状況を学びます。 ・介護実習における諸注意を確認します。 ・介護実習で学ぶべきこと、また課題の見つけ方について学びます。					
2 学期	事例研究 介護実習 ・介護実習における事後学習 ・介護実習における事前学習		・介護実習を、振り返りを行ないます。 ・介護実を振り返り自己の課題を見つけます。 ・自己の課題解決に向けて取り組みを行います ・次の介護実習で学ぶべきこと、また課題の見つけ方について学びます。					
3 学期	介護実習 ・介護実習における事後学習		・介護実習を、振り返りを行ないます。 ・介護実を振り返り自己の課題を見つけます。 ・自己の課題解決に向けて取り組みを行います ・介護実習全体を振り返り、3年次の実習の目標を設定します。					
学 習 上 の 留 意 点	・介護実習の授業と連動しています。							

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	福祉(生活福祉コース)・介護総合演習		単位数	3	単位	履修年次	2	年
目 標	・ パネルシアターなどの作成を通して、専門的な知識と技術の深化と総合化を図る。 ・ 主体的に取り組む態度を身につける。 ・ 作成課題を明確にし、課題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を身につける。							
使 用 教 材	なし							
評価の観点 ・ 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度					
	基礎的な制作技術や発表技術を身につけている。 今後の子ども福祉・幼児教育を担う役割を理解している。	制作を通して、子ども福祉・幼児教育における課題の解決を目指すことを自ら考えている。 制作の中から、子どもの興味・関心を引き出し、表現することができる。	子ども福祉・幼児教育に対して関心を持ち、創意工夫に根差した態度を持って、積極的に取り組もうとしている。					
評 価 方 法	目標を踏まえ、実習に取り組む「主体的に学習に取り組む態度」「知識・技能」「思考・判断・表現」については、授業と作成物の状況から評価を行います。							
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い					
1 学期	・ パネルシアターの作成		・ 物語を作り、物語に必要なパーツを下書きし、色を塗り完成させる ・ 物語の道筋を考える力を身につける。					
2 学期	・ 絵本の作成 ・ パネルシアターの発表 ・ 絵本の発表		・ 自ら発表の課題をみつけ、発表課題解決の道筋を考える力を身につける。 ・ 自分の考えをまとめ、発表できる力を身につける。 ・ 子どもの心情を考え、制作技術を身につける ・ 発表することにより、相手に伝える力を身につける					
3 学期	・ 展示物の作成		・ 制作技術を向上させ、制作意欲を高める					
学 習 上 の 留 意 点	・ 子どもへの関心を向けた制作活動です。創意と工夫を持って取り組みましょう。 ・ 創作活動を通して、子どもたちへの理解を深め、興味・関心を引き出していきましょう。							

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	福祉(介護福祉コース)・社会福祉基礎		単位数	2	単位	履修年次	2	年
目 標	・社会福祉に関する基礎的な知識を身につける。 ・現代社会における社会福祉の意義や役割を理解する。							
使 用 教 材	【副教材】社会福祉基礎（実教出版）							
評価の観点 ・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度				
	社会福祉の基礎的な知識を身につけている。 社会福祉の意義や役割を理解し、創造的・発展的な解決する力を身につけている。	現代社会や社会福祉の変化を知り、介護に関する問題点やこれからの役割について適切に考える力を身につけている。 現代のさまざまな問題に対して適切に判断できる力を身につけている。		社会福祉や現代社会の変化に対して関心を持ち、社会福祉の向上を目指して意欲的に取り組んでいる。				
評 価 方 法	目標を踏まえ、社会福祉基礎に対する「思考・判断・表現」と、「主体的に学習に取り組む態度」については、日々の授業を中心に評価を行います。「知識・技能」については試験をもとに評価します。具体的には、日々の授業態度、提出物、考査等をもとに総合的に評価します。							
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い					
1 学期	生活を支える社会福祉・社会保障制度 ・社会福祉・社会保障制度の意義と役割 ・子ども家庭福祉 ・障害者福祉		・憲法13条、25条を踏まえ、社会保険、公的扶助、社会福祉、公衆衛生などを学習します。 ・各分野の現状と施策について学習します。 ・身体的、精神的、社会的な自立支援について学習します。					
2 学期	生活を支える社会福祉・社会保障制度 ・高齢者福祉 ・生活支援のための公的扶助 ・国民生活を支える社会保障制度 人間関係とコミュニケーション ・コミュニケーションの基礎 ・援助における人間関係の形成 ・社会福祉援助活動の概要		・高齢化と高齢者福祉を踏まえ、介護保険制度について学習します。 ・生活保護制度の基本原理や種類などを学習します。 ・日本の社会保障制度の特徴や概要を学習します。 ・コミュニケーションの基礎を学習し、対人援助能力を養います。					
3 学期	地域福祉の進展と多様な社会的支援制度 ・地域福祉の進展と地域の将来 ・多様な社会的支援制度 ・社会福祉の将来と福祉の担い手		・地域福祉について学習し、自分たちの福祉のあり方を考える力を養います。 ・福祉や介護の人材に求められていることを学習します。					
学 習 上 の 留 意 点	・介護福祉士国家試験の「人間と社会」の重要な領域になります。「人間の尊厳と自立」や「社会の理解」について、しっかりと知識力が必要です。毎回の授業の中で一つひとつ理解を深めていきましょう。							

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	福祉(介護福祉コース)・生活支援技術		単位数	3	単位	履修年次	2	年
目 標	・ 自立を尊重した生活を支援するための介護の役割を理解し、介護に関する基礎的な知識と技術を身につける。 ・ 様々な介護場面において適切かつ安全に支援できる能力と態度を身につける。							
使 用 教 材	【副教材】生活支援技術（実教出版）							
評価の観点 ・ 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度					
	・ 生活を支援するための介護に対して関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。	・ 生活を支援するための介護の方法について自分なりの考えを持ち、かつ意見交換することができる。 ・ 課題レポートにおいて、学んだ内容を自分の言葉で適切に記入することができる。	・ 介護に関する基礎的な知識を身につけ、生活支援についてその意義や役割を理解している。 ・ 基礎的な介護技術を身につけ、様々な介護場面において適切かつ安全に支援することができる。					
評 価 方 法	目標を踏まえ、「主体的に学習に取り組む態度」と「思考・判断・表現」については、日々の授業の取り組みを中心に評価を行います。「知識・技術」については試験をもとに評価します。 具体的には、日々の授業態度、提出物、実技テスト、考査等をもとに総合的に判断し評価します。							
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い					
1 学期	自立に向けた生活支援技術 ・ 移乗の介護 ・ 排せつの介護 ・ 食事の介護 ・ 入浴、清潔保持の介護		・ 排せつの過程や排せつ障害について理解し、個々に合った排せつ介助が提供できるよう介助方法や福祉用具などについて学びます。 ・ 食事の場面を様々な角度でとらえ、食事をとる意欲等の面、咀嚼・嚥下等の身体機能面、誤嚥・窒息・脱水といった安全面それぞれについて考え学びます。 ・ 入浴の楽しみの部分とプライバシーの問題など、入浴に関する知識とところ、介護技術について学びます。					
2 学期	自立に向けた生活支援技術 ・ 睡眠の介護 ・ 終末期、緊急時の介護 ・ 家事の介護		・ 睡眠の意義と目的について理解し、安眠できるための環境づくりや支援方法について学びます。 ・ 終末期および緊急時における介護職の役割について理解するとともに、チームケアや家族への支援の方法について学びます。					
学 習 上 の 留 意 点	・ 実習中心の授業となり、指定の実習服とシューズが必要です。 ・ 課題レポートが多い授業です。 提出期限を守るなど最低限のルールはもちろん、丁寧にしっかり記入するなど意欲的に取り組みましょう。 ・ 互いに協力し合える関係作りをしていきましょう。 ・ 早く介護ができる優しい心を育てていきましょう。 ・ 放課後の自主練習に積極的に参加し、介護技術を身につけましょう。							

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	福祉(生活福祉コース)・生活支援技術		単位数	2	単位	履修年次	2	年
目 標	福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、適切で安全・安楽な生活支援技術を提供するために必要な資質・能力を身につける。 自立生活の支援について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。							
使 用 教 材	【副教材】生活支援技術							
評価の観点 ・評価規準	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度 学習に対して強い関心を持ち、よりよく学ぼうとする意欲を持って取り組んでいる。			
	自立に向けた生活支援に必要な資質・能力をサービス利用者主体の生活と関連させながら体系的・系統的に理解するとともに、実践的・体験的な学習活動を通して関連する技術を身に付けている。		知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を、論述やレポート作成、グループでの活動等を通して身に付けている。					
評 価 方 法	目標を踏まえ、生活支援技術に対する「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「主体的に取り組む態度」について評価の観点・評価基準を基に授業を中心に評価を行う。具体的には、日々の授業、提出物、レポート作成、実技試験、定期考査等をもとに総合的に判断し評価する。							
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い					
1 学期	私たちの暮らしと生活支援 ・生活支援の理解 ・生活支援に向けたアセスメント		・生活とは何か、その定義について理解した上で要介護者や家族の生活を重視した介護のあり方を考察する。 ・介護過程の中でアセスメントが持つ意義、役割について理解し、利用者およびその家族が抱えるニーズの把握に向けた関わりを考察する。					
2 学期	自立に向けた生活支援技術 ・居住環境の整備 ・睡眠の介護 ・家事の介護		・住環境の整備の意義、目的並びにバリアフリーやユニバーサルデザインの考えに基づいた居住環境について理解し、ICFの視点を活かした望ましい支援のあり方を考察する。 ・安眠のための環境作りができるようになる。 ・睡眠の介護に関する基礎的な知識と技術を身につける。 ・睡眠が身体に及ぼす影響を学習する。 ・家事の介護の関する意義、目的を理解し、科目「家庭総合」との学習と関連させて望ましい支援のあり方を考察する。					
3 学期	自立に向けた生活支援技術 ・移動の介護 ・身じたくの介護		・移動の介護に関する意義、目的を理解し、その人の自立生活を目指す上で ICF の視点を活かした望ましい支援のあり方を考察する。 ・介護に必要なボディメカニクスの理論から体位変換、車いすの介助、歩行介助、福祉用具を学ぶことで移動・移乗に関する基礎的な知識と技術を習得する。 ・身じたくの介護に関する意義、目的を理解し、その人らしさの表現とともに ICF の視点を活かした望ましい介護のあり方を考える。 ・利用者の心身の状態、および生活の状況に応じた整容、口腔ケア、衣類の着脱を学ぶことで身じたくの介護に関する基礎的な知識と技術を習得する。					
学 習 上 の 留 意 点	・実技練習も実施されるため、指定のシューズが必要です。 ・メンバー同士で協力し合える関係作りをしていきましょう。 ・授業外の自主練習にも積極的に参加し、必要な技術を身につけましょう。							

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	家庭・フードデザイン		単位数 2 単位		履修年次 2 年
					生活福祉コース
目 標	・食生活の現状を理解し、より良い食生活の創造を目指す。 ・食品の調理性を理解し、調理の基本的な知識や技術を身に付ける。				
使用教材	【教科書】新版 フードデザイン（実教出版）				
評価の観点 ・評価基準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
	食生活について意欲・関心を持って、進んで学習に取り組むことができる。	食生活の諸問題に気づき、創意工夫する能力を身に付けている。	調理技術の基礎を確実に身に付けている。	食品について基本的な知識を身に付け、食品の調理性を理解している。	
評価方法	目標を踏まえ、食に関する「関心・意欲・態度」については、日々の授業を中心に評価を行います。「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」については、定期考査・小テスト・プリント筆記・課題等を総合的に判断し評価を行います。				
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い		
1 学期	○食生活と健康 ・食事の意義と役割 ・食をとりまく現状 ○調理実習 ・基本的な調理		・食事の意義と役割について理解する。 ・栄養摂取状況の変化、生活習慣病、欠食、食料自給率等について、理解する。 ・包丁を正しく持ち、一定の時間内で均一に食材を切ることができる。 ・だしのとり方等基本的な調理技術を身に付ける。		
2 学期	○調理の基本 ・調理とおいしさ ・調理操作 ・調味操作 ○調理実習 ・日常食の調理		・調理の目的や食べ物のおいしさについて、理解する。 ・調理用語とその方法やはたらきについて、理解する。 ・日常食の調理の技術を身に付ける。		
3 学期	○食品の特徴・表示・安全 ・食品の特徴と性質 ・食品の選択と表示 ○調理実習 ・日常食の調理		・食品の特徴と性質について理解する。 ・安全な食品の選択方法を知り、食品表示を理解する。 ・日常食の調理の技術を身に付ける。		
学 習 上 の 留 意 点	・衛生面での自覚を持ち、頭髪や服装など身だしなみを整えて授業に臨んでください。 ・家庭科食物調理技術検定 4 級・3 級レベルの学習をします。				

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	家庭・子どもの発達と保育		単位数	4	単位	履修年次	2	年
						(生活福祉コース)		
目 標	子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識と技術を習得させ、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と態度を育てる。							
使 用 教 材	【教科書】子どもの発達と保育 育つ・育てる・育ち合う（教育図書）							
評価の観点・評価規準	意欲・関心・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解				
	子どもの成長に関心をもち、関わろうとする意欲や、進んで学習に取り組む意欲、態度が見られる。	保育に関する基礎的・基本的な知識・技術を使い、思考力を高め、適切に判断し、創意工夫する力を身につけている。	子どもの生活と保育に関する技術を身につけている。	子どもの発育・発達について基本的な知識が身につiki、理解している。				
評 価 方 法	目標を踏まえ、保育に関する「関心・意欲・態度」については、日々の授業を中心に評価を行い、「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」は、定期考査やレポート、作品を中心に評価を行い、総合的に判断し評価します。							
学 期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い				
1 学期	○子どもの発達の特性 ・生涯発達における乳幼児期の重要性 ・発達と環境 ・発達観・児童観とは ○子どもの発達過程 ・身体発育と運動機能の発達 ・乳幼児期のからだの発育 ・乳幼児期の発達の特徴 等 ◆保育検定4級に関する内容 ・言語表現技術、造形表現技術 ◇手芸 ・フェルトを使った小物 等			・乳幼児期は人が生涯にわたる生きる力の基礎を培う時期であり、子どもが主体的に環境にかかわることが重要であることを理解する。また、社会的な背景とかわらせ発達観・児童観の変遷の概要についても理解する。 ・子どもの身体発育、運動機能、認知機能、情緒、人間関係など、発達には順序性や連続性があることを理解する。 ◆子育て支援に必要な基礎的知識・技術の定着と実践的な態度を身に付ける。 ◇子育て支援にかかわる物作りをする上で必要な基礎的技術を身に付ける。				
2 学期	○子どもの生活 ・子どもの健康と生活 ・子どもの食事 ・子どもの衣服 等 ○子どもの保育 ・保育の意義と目標 ・保育の方法 ・保育の環境 ◆保育検定3級に関する内容 ・言語表現技術、造形表現技術 ◇手芸 ・名札 めいぐるみ 等			・乳幼児の生活の特徴と適切な養護のあり方について理解させる。 ・子どもの発達を促すための保育の必要性和意義を理解し、基本的な保育技術を身に付ける。 ◆子育て支援に必要な基礎的知識・技術の定着と実践的な態度を身に付ける。 ◇子育て支援にかかわる物作りをする上で必要な基礎的技術を身に付ける。				
3 学期	○子どもの福祉と子育て支援 ・子どもの福祉 ・子育て支援 ◇手芸 ・布のおもちゃ 等			・児童福祉の理念や関係法規と制度について理解するとともに、近年の子育て支援の考え方と施策について理解する。 ◇子育て支援にかかわる物作りをする上で必要な基礎的技術を身に付ける。				
学 習 上 の 留 意 点	・実習は準備から片付けまで積極的に参加してください。							

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	福祉(介護福祉コース)・生活支援技術（医療的ケア）		単位数	2	単位	履修年次	3	年
目 標	・医療的ケアは医行為であることを理解する。 ・対象者の尊厳を守り、自立を助ける支援ができるよう知識を身につける。 ・介護従事者として、医療的ケアを必要とする対象者に安全で的確な喀痰吸引、経管栄養を実施できるための知識、技術を身につける。 ・医療チームの一員として、他職種と連携することの大切さを知る。							
使 用 教 材	【副読本】医療的ケア（中央法規出版）							
評価の観点 ・評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度					
	人体の解剖学的、生理学的機能についての知識を身につけ、その意識や役割を理解している。	介護従事者として医療的ケアの必要性について考えると、対象者の気持ちに寄り添ったケアとは何かを考える。医療的ケアを実施する上でのポイントや留意点を自分の言葉で表現することができる。	医療的ケアについて関心を持ち意欲的に学ぶ姿勢がみられる。					
評 価 方 法	「主体的に取り組む態度」と「思考力・判断力・表現力」については日々の授業を中心に評価する。 具体的には、授業態度やワークの取り組み状況、提出物にて判断する。 「知識・技術」については、試験を元に評価する。 具体的には、実技テスト、筆記テスト、小テストにて判断する。							
学 期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い				
1 学期	・医療的ケア実施の基礎 医療的ケア 安全な療養生活 清潔保持と感染予防 健康状態の把握			・医療的ケアとはどういったものか、また介護福祉士が医療的ケアを実施できるようになった背景について知る。 ・医療的ケアを安全に実施するための基礎的な知識を身につける。 ・医療の倫理や医療的ケアに関する法律や介護従事者の役割について知る。 ・健康状態の把握方法、感染についての知識を身につける。				
2 学期	・演習（心肺蘇生法） ・喀痰吸引 基礎的知識 実施手順			・心肺蘇生の手順を学び、実践する。 ・口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内部の喀痰吸引に関する知識、実施手順、留意点について学ぶ。				
3 学期	・経管栄養 基礎的知識 実施手順			・胃ろう、腸ろう、経鼻経管栄養に関する知識、実施手順、留意点について学ぶ。				
	・演習（喀痰吸引・経管栄養）			・安全で的確な喀痰吸引、経管栄養のケアを実施できるよう技術を習得する。				
学習上の留意点	・医療分野の内容となるため難しい部分もあると思いますが、分からない点や疑問点は積極的に質問してください。 ・定期的に小テストを実施しますので、復習をしっかりと行いましょう。 ・後期では、喀痰吸引と経管栄養の演習を行うため、指定の実習服が必要です。							

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	福祉(介護福祉コース)・生活支援技術		単位数	3 単位	履修年次	3 年
目 標	・介護を必要としている人の自立に向けた生活支援技術を理解する。 ・終末期や緊急時における介護の意義と役割について理解する。					
使 用 教 材	【副教材】生活支援技術（実教出版）					
評価の観点 ・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
	介護を必要としている人の自立に向けた生活支援技術を理解している。 終末期や緊急時における介護の意義と役割について理解している。	自分の考えを適切に表現することができる。 自立に向けた生活支援技術とは何か考えて行動することができる。 終末期や緊急時における介護と役割について自ら考え、適切に判断できる。	介護に対して関心を持ち、より良い介護を目指して意欲的に取り組んでいる。			
評 価 方 法	目標を踏まえ、生活支援技術に対する「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」については、日々の授業を中心に評価を行います。「知識・技能」については試験をもとに評価します。具体的には、日々の授業、提出物、考査等をもとに総合的に判断し評価します。					
学 期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い		
1 学期	自立に向けた生活支援技術 ・家事の介護 ・身じたくの介護 ・移動の介護			・家事支援（調理・洗濯・掃除・裁縫・衣類・寝具の衛生管理・買い物・家庭経営）について学習する。 ・身じたく（整容・口腔ケア・衣類の着脱）について学習する。 ・移動支援（移乗・体位変換・車いす・歩行）について学習する。		
2 学期	自立に向けた生活支援技術 ・食事の介護 ・入浴・清潔保持の介護 ・排せつの介護 ・睡眠の介護 レクリエーションにおける介護			・食事介助（口腔期・咽頭期・食道期）と誤嚥予防について学習する。 ・入浴介護（一般入浴・シャワー浴・チェア浴・機械浴）と清潔保持（清拭・洗浄）について学習する。 ・排せつ介護（排せつ介護のための道具やおむつ）について学習する。 ・安眠のため環境づくり（ベッド・布団・枕・マット・シーツ）について学習する。 ・個別レクリエーションと集団レクリエーションの役割を学習する。 ・レクリエーションの種目や手法について学習する。		
3 学期	終末期・緊急時の介護 ・終末期の介護 ・緊急時の介護			・終末期ケア（ターミナルケア・緩和ケア・ホスピスケア）の意義と役割について学習する。 ・終末期の症状、死の捉え方、家族支援グループケアについて学習する。 ・怪我や事故など緊急時における対応と救命処置について学習する。 ・災害時における安全対策や支援体制について学習する。		
学 習 上 の 留 意 点	・講義形式の授業です。ノートやプリントをしっかりと記入して理解を深めましょう。 ・介護実習室は、指定のシューズを履きましょう。 ・介護を必要としている人の自立に向けた生活支援技術についての知識や理論を理解しましょう。					

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	福祉(生活福祉コース)・生活支援技術		単位数	2	単位	履修年次	3	年
目 標	福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、適切で安全・安楽な生活支援技術を提供するために必要な資質・能力を身につける。 自立生活の支援の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。また、健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、自立生活の適切な支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。							
使 用 教 材	【副教材】生活支援技術（実教出版）							
評価の観点・評価基準	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	自立に向けた生活支援の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ、解決する力を身につける。		知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を、論述やレポート作成、グループでの活動等を通して身に付けている。		尊厳の保持や自立支援に根ざした豊かな生活に向けた支援を行うため、福祉の見方・考え方を働かせて主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。			
評 価 方 法	目標を踏まえ、生活支援技術に対する「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「主体的に取り組む態度」について評価の観点・評価基準を基に授業を中心に評価を行う。具体的には、日々の授業、提出物、レポート作成、実技試験、定期考査等をもとに総合的に判断し評価する。							
学 期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い				
1 学期	自立に向けた生活支援技術 ・食事の介護 ・入浴・清潔保持の介護 ・排せつの介護			・食事の意義、目的を理解し、ICFの視点を活かしたその人の食に対する望ましい介護のあり方を考察する。 ・食事の過程を理解し、誤嚥や窒息の予防、予防といった安全面での留意点を学ぶことで食事の介護の介護に関する基礎的な知識と技術を習得する。 ・入浴・清潔保持の意義、目的を理解し、入浴時の身体への作用、観察の必要性や事故に向けた留意点にふれ、ICFの視点を活かした望ましい介護のあり方を考察する。 ・利用者の心身の状態および生活の状況に応じた入浴・清潔保持の介護に関する基礎的な知識と技術を習得する。 ・排泄の意義・目的を理解し、望ましい介護のあり方を学習する。				
2 学期	自立に向けた生活支援技術 ・レクリエーションにおける介護 終末期・緊急時の介護 ・終末期の介護			・時代とともに変化するレクリエーションの考え方にふれ、利用者支援に必要な個別レクリエーションや集団レクリエーションが持つ意味を理解する。 ・個人の尊厳を重視した終末期ケアの意義と介護が持つ役割について理解する。 ・利用者の終末期における心身の状態や変化、死後の処置、グリーフケアにふれ、介護職として必要な基礎的な知識と技術を習得する。				
3 学期	・緊急時の介護			・外傷、発熱、熱傷、骨折、誤嚥に対する処置や医療機関に搬送するまでの対応、緊急通報システム、救命処置などに介護職として必要な基礎的な知識、技術を習得する。 ・災害時における介護分野の役割や他職種連携について理解する。				
学 習 上 の 留 意 点	・実技練習も実施されるため、指定のシューズが必要です。 ・メンバー同士で協力し合える関係作りをしていきましょう。 ・授業外の自主練習にも積極的に参加し、必要な技術を身につけましょう。							

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	福祉(介護福祉コース)・コミュニケーション技術	単位数 2 単位	履修年次 3 年
目 標	・介護におけるコミュニケーションに関する知識と技術を習得する。 ・介護福祉援助活動に活用する能力と態度を養う。		
使 用 教 材	【副教材】コミュニケーション技術(実教出版)		
評価の観点 ・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	コミュニケーションの基本である傾聴・共感・受容の態度で対話ができる。介護福祉援助活動は信頼関係の構築を基盤とし、法や制度を適用した社会生活を総合的に援助する活動であることを理解できる。	自分の考えを適切に表現することができる。日常生活や介護実習等を振り返り、コミュニケーションの技法や人との関係作りについて考えることができる。	対人関係に関する援助やコミュニケーションに興味を持ち、授業に意欲的に取り組んでいる。
評 価 方 法	目標を踏まえ、コミュニケーション技術に対する「主体的に取り組む態度」と「思考力・判断力・表現力」については、日々の授業を中心に評価を行います。「知識・技能」については試験をもとに評価します。具体的には、日々の授業、提出物、考査等をもとに総合的に判断し評価します。		
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い
1学期	介護におけるコミュニケーション ・コミュニケーションの意義と役割 ・コミュニケーションの基本技術 ・援助の技法とコミュニケーション		・コミュニケーションの意義と役割を理解し、人間関係の形成や他者理解、自己理解について学習する。 ・傾聴や受容、共感など、コミュニケーションの基本技術について学習する。 ・個別的な援助、集団的な援助の概要について学習する。
2学期	サービス利用者や家族とのコミュニケーション ・サービス利用者や家族との関係づくり ・サービス利用者に応じたコミュニケーション (高齢者・視覚障害者・聴覚障害者・言語障害者・運動機能障害者・知的障害者・認知症の人)		・利用者や家族との関係づくりについて学習する。 ・手話や点字をはじめ、利用者の状態に応じたコミュニケーション技法を学習する。
3学期	介護におけるチームのコミュニケーション ・記録 ・チームによる連携 ・スーパービジョンの技法		・記録の意義や目的、活用などを学習する。 ・情報共有の必要性や他職種との関わりについて学習する。 ・スーパービジョンの必要性や面接方法について学習する。
学 習 上 の 留 意 点	・対人援助の基本である援助技術・コミュニケーションなどに関する知識と技術を学び、実践力を身に付けます。授業には常に意欲的に取り組みましょう。 ・普段の自分自身のコミュニケーションを振り返り、学習に取り組みましょう。		

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	福祉（介護福祉コース）・介護過程		単位数	2	単位	履修年次	3	年
目 標	・ 人間としての尊厳の保持と自立支援の観点を養う。 ・ 介護過程の意義と役割を理解する。 ・ 介護過程を展開する能力を養う。							
使用教材	【副教材】介護過程（実教出版）							
評価の観点 ・ 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度					
	介護過程の実践をする意義と役割を理解できている。 今まで学習した他教科の知識を活用できている。	課題について、アセスメント、計画、目標について考えることができている。 自らの考えを提案し、適切な表現方法ができている。	利用者の課題を見つけ、課題解決へむけての取り組む態度が身についている。 事例への興味を持ち、授業に意欲的に取り組んでいる。					
評価方法	「主体的に取り組む態度」と「思考力・判断力・表現力」については日々の授業を中心に評価する。 具体的には、授業態度や課題、レポートの取り組み状況、提出物にて判断する。 「知識・技術」については、アセスメントシート作成を評価する。 具体的には、事例研究、アセスメントシート作成、発表にて判断する。							
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い					
1 学期	介護過程の展開 ・ 介護計画の立案 ・ 介護計画の実施と評価		・ 情報収集とアセスメントについて事例を通して学習します。 ・ 生活課題と目標設定ついて事例を通して学習します。 ・ 介護計画の立案と実施について事例を通して学習します。					
2 学期	介護過程の実践的展開 ・ 介護過程の展開		・ ICFの考え方にに基づき、介護実習にて介護過程を展開します。					
3 学期	介護過程とチームアプローチ ・ 介護過程とチームアプローチの意義 ・ 介護過程とチームアプローチの実際		・ チームアプローチが持つ意義について学習します。 ・ 他職種連携とケースカンファレンスの機能について学習します。 ・ 施設介護と在宅介護におけるチームアプローチの事例検討をします。					
学習上の留意点	・ 介護過程は、介護を必要とする人の全体像を捉え、その人らしい生活を実現するためにどのような介護が必要なのかを考えます。そして目的に沿ったプロセスを経て介護計画を作成し、専門職として生活課題を解決するための思考過程です。事例に基づいて介護過程の展開の方法を学習しましょう。							

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	福祉(介護福祉コース)・介護実習		単位数	8	単位	履修年次	3	年
目 標	・様々な介護の場において、学校で学んだ知識と技術を統合し、介護技術の実践能力、介護過程の実践能力、他職種協働について理解し、技術を身に付ける。							
使 用 教 材	介護実習の手引き							
評価の観点・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度					
	利用者の生活と介護の意義や役割を理解することができている。 利用者一人ひとりを理解し、その人にあったコミュニケーション、介護の実践ができている。	利用者一人一人を理解し、その人にあったコミュニケーション、介護をどうしたらよいのか考えることができる。 状況を適切に判断して行動できている。	介護現場に対して関心を持ち、意欲的に実習に取り組む態度であるか。取り組んでいる。 介護技術を習得し、自ら判断して適切な介護を行うことができている。					
評 価 方 法	目標を踏まえ、実習に取り組む「知識・技能」と「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」については、介護実習の状況から評価を行います。評価については、介護実習施設よりの指導者からのコメント、実習日誌等をもとに、総合的に判断し評価します。「介護総合演習」「介護過程」の授業の授業内容とも連携して評価をします。							
学 期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い				
通 年	個別ケアのための継続した実習 ・ 個別的な介護技術の実践 ・ 介護課程の実践 ※別途介護実習計画を配布します。 実習計画に基づき実施します。 ※Ⅳ期 介護実習 Ⅴ期 介護実習 Ⅵ期 介護実習 合計 3 5 日			個別ケアの介護実習を行う。 介護過程の展開を行うための実習を行う。 アセスメント、介護計画立案を、「介護過程」の授業と連動し行います。				
学 習 上 の 留 意 点	・ 通年になります。毎週 1 日計 3 5 日、介護実習に行きます。 ・ 校外実習となり、実習施設に行きます。身だしなみ、マナーは特に気をつけましょう。 ・ どのような人でも快く介護ができる優しい心を育てていきましょう。 ・ 3 5 日の介護実習をこなすため、夏休み前半に実習があります。							

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	福祉(介護福祉コース)・介護総合演習		単位数	1	単位	履修年次	3	年
目 標	・介護演習や事例研究などの学習を通して、専門的な知識と技術の深化と総合化を図る。 ・介護実習に主体的に取り組む態度を身につける。 ・介護実習における自己の課題を明確にし、課題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を身につける。							
使用教材	プリント							
評価の観点 ・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度				
	介護実習の意義や在り方、臨む態度を身に付けている。 介護に対する知識や技術、介護過程の展開を理解している。	介護実習を振り返り、介護実習における課題の解決を目指して自ら考え、適切に判断することができる。 介護実習の目的や介護従事者としての役割を理解している。		介護現場に対して関心を持ち、意欲的に実習準備に取り組むと共に、実習後の課題解決に積極的に取り組もうとする態度を身に付けている。				
評価方法	目標を踏まえ、介護実習に取り組むために「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」について日々の授業、レポートの状況をもとに評価します。また、「介護実習」の授業と連携し介護日誌、指導者のコメント等をもとに総合的に判断し評価します。							
学 期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い				
1学期	介護実習 ・介護実習の意義を学習する。 ・介護実習における実習事前学習を行う。			・介護実習の意義、目的を学習する。 ・介護実習における諸注意を確認する。 ・介護実習で学べきこと、また目標の設定について学習する。				
2学期	介護実習 ・介護実習における実習事後学習を行う 事例研究 ・実習事例について学習する。			・自己の課題について解決に向けて取り組んでいく。 ・実習事例を見ながら、グループ討議を行う。				
3学期	介護実習 ・介護実習についての振り返りをする。 介護実習報告会 ・介護実習の実習報告会を開催する。			・介護実習全体を振り返り、自己の課題を見つける。 ・介護実習報告会の資料を作成するとともに、実習報告会を開催する。				
学 習 上 の 留 意 点	・介護実習及び介護過程の授業と連動しています。							

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	福祉(生活福祉コース)・介護総合演習		単位数	3	単位	履修年次	3	年
目 標	・ 防犯劇などの学習を通して、子どもに関する専門的な知識と技術を身につける。 ・ 主体的に取り組む態度を身につける。 ・ 課題を明確にし、自発的・創造的に解決する能力を身につける。							
使 用 教 材	なし							
評価の観点 ・ 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度					
	防犯劇を通して、子ども達に伝える技術を身につけている。 子どもに関する専門的な知識と技術を身につけている。	課題の解決を目指して自分の考えを持ち、適切に判断する能力を身につけている。 自分の考えや意見を的確に表現することができる。	子どもに関心を持ち、知識と技術の習得を目指して意欲的に取り組んでいる。 子どもに関する情報を適切に収集、処理し活用する実践的な態度を身につけている。					
評 価 方 法	目標を踏まえ、「主体的に学習に取り組む態度」・「知識・技能」・「思考・判断・表現」を日々の授業を中心に評価を行う。具体的には、授業の態度や発表、レポートなどの内容を踏まえ、総合的に評価を行う。							
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い					
1 学期	・ 防犯劇の構成、台本作成、練習 ・ レクリエーションの作成、練習		・ 防犯劇やレクリエーションを通して、特に子どもに対する表現方法や身につける。 ・ より良い劇にするために自ら課題を見つけ、解決の道筋を考える力を身につける。 ・ レクリエーション指導案や手遊び指導案を作成し、発表を通して専門的な知識と技術を身につける。					
2 学期	・ 防犯劇の練習 ・ レクリエーションの練習 ・ 防犯劇の発表 ・ レクリエーションの実践 ・ 防犯劇の振り返り		・ 防犯劇やレクリエーション活動を通して、子どもに柔軟に対応できる力を養う。 ・ 自分の考えをまとめ、発表できる力を身につける。					
3 学期	・ 防犯劇のまとめ ・ 保育園や幼稚園用の展示物の作成		・ 防犯劇の反省を通して、新たな課題や改善点を見いだす力を身につける。 ・ 展示物を作成し、他者へ伝えるための表現力を身につける。					
学 習 上 の 留 意 点	・ 劇中心の授業です。指定のシューズが必要です。 ・ メンバー同士で協力し合える関係作りをしていきましょう。							

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	福祉(介護福祉コース)・介護福祉基礎		単位数	3	単位	履修年次	3	年
目 標	・介護を必要としている人の自立支援、尊厳の保持など、介護の意義と役割を理解する。 ・介護を適切に行う能力を身につけます。							
使用教材	【副教材】介護福祉基礎 (実教出版)							
評価の観点 ・評価規準	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	多様な生活のあり方を理解し、尊厳の保持や自立支援を行う上での介護従事者の意義や役割を理解できている。 介護保険制度や障害者総合支援法によるサービス内容を理解することができている。 介護現場における感染について具体的な予防方法を理解している。		介護福祉士の倫理綱領を理解し、専門職としてふさわしい判断ができている。 介護事故予防の重要性を理解し、視野を広く持ち客観的な判断ができている。 多様な生活のあり方を理解し、尊厳や自立支援について自身の考えを述べるができている。 。利用者の気持ちを読みとり、専門職としてふさわしい表現ができている。		介護に対して関心を持ち、意欲的に授業を受ける態度である。 介護保険サービス・障害者サービスへ関心を持ち、主体的に学ぼうとしている。			
評価方法	目標を踏まえ、「知識・技能」と「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」については、日々の授業を中心に評価を行います。「知識・技能」については試験をもとに評価します。具体的には、日々の授業態度、提出物、考査等をもとに、総合的に判断し評価します。							
学 期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い				
1 学期	介護福祉の担い手 ・介護従事者を取り巻く状況 ・介護従事者の役割			・介護福祉士の資格の歴史についてふれる。さらに介護福祉士の資格の取得方法や人材確保のための法律や対策について学習する。 ・介護の役割を取り上げ、介護福祉士が主に働く場での役割を学習する。				
2 学期	介護福祉サービスの概要と連携 ・介護福祉サービスの概要 ・介護における連携			・介護保険制度や障害者自立支援制度などにおけるサービスを取り上げ、サービス内容や利用方法について学習する。 ・多職種連携について取り上げ、チームとして利用者の自立支援を考える視点を学習する。				
3 学期	介護における安全確保と危機管理 ・介護における安全確保と事故対策 ・感染対策 ・介護従事者の健康管理			・介護実践における安全確保と事故防止について学習する。 ・介護現場における感染症の実態を取り上げ感染予防の意義と必要性について学習する。 ・介護サービスを提供するためには、介護者の心身が重要であることを学習する。				
学習上の留意点	介護に関する基本的な知識を学びますので、しっかりと学習し理解しましょう。 介護従事者の健康管理も大切になってきます。理解しておきましょう。							

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	福祉(生活福祉コース)・福祉制度とサービス		単位数	2	単位	履修年次	3	年
目 標	・福祉制度とサービスに関する基礎的な知識を習得する。 ・社会福祉の意義や役割を理解する。							
使用教材	自作プリント、資料プリント							
評価の観点 ・評価基準	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に取り組む態度			
	福祉制度についての基礎的な知識を身につけ、社会福祉の意義や役割を理解し、創造的・発展的な解決する力を身につけている。 社会福祉の意義や役割を理解している。		現代社会や社会福祉の変化を知り、問題点の解決やこれからの役割について考え、適切に判断できる。		社会福祉や現代社会の変化に対して関心を持ち、社会福祉に関する諸問題に意欲的に取り組もうとしている。			
評価方法	目標を踏まえ、福祉制度・社会福祉に対する「主体的に取り組む態度」と「思考・判断・表現」については、日々の授業を中心に評価を行います。「知識・技能」については試験をもとに評価します。具体的には、日々の授業態度、提出物、考査等をもとに、総合的に判断し評価します。							
学 期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い				
1学期	社会福祉の理念 ・社会福祉を支える諸原理 ・社会福祉と日本国憲法			・日本国憲法が規定している生存権などを取り上げ、わが国の社会保障と社会福祉体系について理解する。				
2学期	・自立生活支援 ・社会保障の目的 ・社会保障と社会保険			・多様な自立生活を支えるわが国の社会保障制度にはなにがあるかを整理して理解する。				
3学期	社会福祉の分野と課題 ・地域の福祉 ・高齢者の福祉 ・公的扶助 ・福祉のまちづくり			・地域福祉の推進を図るための様々な福祉関連資源とその活用について理解する。 ・高齢者関係法の成り立ちの社会的背景や高齢者福祉の課題について考える。 ・生活保護制度の基本原則や原則、理念、現状について理解し、課題について考える。 ・「福祉のまちづくり」は住宅や環境整備を基盤とし、地域住民が参画して公私協同の地域作りで実現することを理解する。				
学習上の留意点	・福祉制度に関する目です。どのような福祉制度やサービスがあるのか、一つずつ理解を深めていきましょう。							

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	家庭・ファッション造形基礎		単位数	2	単位	履修年次	3	年
						(生活福祉コース)		
目 標	被服の構成、被服材料の種類や特徴など被服製作に関する知識と技術を習得し、ファッション造形の基礎的な能力と態度を身に付ける。							
使 用 教 材	【教科書】ファッション造形基礎（実教出版）							
評価の観点 ・ 評価規準	意欲・関心・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解				
	被服製作・被服構成・被服材料などに関心をもち、意欲をもって学習活動に取り組むことができる。	被服製作・被服構成・被服材料などについて、知識・技術を使って思考力を高め、自ら考え、適切に判断し実行する力を身に付けている。	被服製作・被服構成・被服材料などに関する基礎的・基本的技術を身に付けている。	被服製作・被服構成・被服材料などに関する基礎的・基本的知識が身に付き、理解している。				
評 価 方 法	目標を踏まえ、被服製作に対する「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」については、日々の授業を中心に評価を行い、「技能」「知識・理解」は、定期考査や実習作品を中心に評価を行い、総合的に判断し評価します。							
学 期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い				
1 学期	○ 衣服の構成 ・ 人のからだと衣服 ・ 立体構成衣服と平面構成衣服 ○ 衣服の素材 ・ 衣服の素材 ・ 衣服素材の性能 ○洋服の製作 ・ ショートパンツの製作			・人体の構造・機能、動作時の人体形態の変化、性別や年齢による体型の変化等を理解する。 ・ 被服には、立体構成と平面構成の二つの構成があることを理解する ・ 被服材料の種類と特徴について理解し、着用目的にあった被服材料を選び、製作ができる。 ・ 実習を通して洋服の製作に必要な基礎的知識と技術を習得する。				
2 学期	○和服の製作 ・ じんべいの製作			・ 実習を通して和服の構成と製作に関する知識と技術を習得する。				
3 学期	○子ども服の製作 ・ スカートなどの製作			・ 実習を通して洋服の装飾技術を習得する。				
学 習 上 の 留 意 点	・ 実習は準備から片付けまで積極的に参加してください。							

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	家庭・フードデザイン		単位数	2	単位	履修年次	3	年
						生活福祉コース		
目 標	・さまざまな角度から「食」について考え、日本料理・西洋料理・中国料理など、それぞれの作法を知り、身近なマナーとして身に付ける。 ・食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に実践的に取り組む。							
使用教材	【教科書】新版 フードデザイン（実教出版）							
評価の観点 ・評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能			知識・理解		
	食生活の充実について関心を持ち、進んで学習に取り組む意欲、態度が見られる。知識や技術を進んで身に付けようとしている。	食品の特徴と性質に関する知識・技術を使い、思考力を高め、適切に判断する力を身に付けている。	調理技術を確実に身に付け、その技術を応用できる。			日本と世界の食文化について知識を身につけ、作法について理解している。		
評価方法	目標を踏まえ、食に関する「関心・意欲・態度」については、日々の授業を中心に評価を行います。「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」については、定期考査やレポートを中心に総合的に判断し評価を行います。							
学 期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い				
1 学期	○食品の特徴・表示・安全 ・食品の特徴と性質 ・食品の選択と表示 ○調理実習 ・食品の性質を利用した調理			・食品の特徴と性質について理解する。 ・食品の生産と流通の現状について把握する。 ・安全な食品の選択方法を知り、食品表示を理解する。 ・食品を衛生的に取り扱うための知識を身につける。 ・各食品の特性を活かした調理方法について学ぶ。				
2 学期	○料理様式とテーブルコーディネート ・日本料理の様式と献立 ・西洋料理の様式と献立 ・中国料理の様式と献立 ○調理実習 ・日本料理 ・西洋料理 ・中国料理			・日本料理、西洋料理及び中国料理の特徴、サービスとマナーを中心に学習し、他国の食文化に触れる。 ・日本料理、西洋料理や中国料理の調理技術を身に付ける。				
3 学期	○食育 ・食育の意義と推進活動			・食育の意義について理解し、家庭や地域における食育推進活動を考える。				
学 習 上 の 留 意 点	・調理実習では、安全面と衛生面に十分留意し、頭髮や服装を正しく整えること。 ・実習教室の配当などにより、学習順序が前後する場合がある。							

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	家庭・子ども文化		単位数	3	単位	履修年次	3	年
						(生活福祉コース)		
目 標	子どもと遊び、子どもの表現活動、児童文化財などに関する知識と技術を習得させ、子ども文化の充実を図る能力と態度を育てる。							
使 用 教 材	【教科書】子ども文化（教育図書）							
評価の観点 ・評価規準	意欲・関心・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解				
	子どもの成長や児童文化に関心を持ち、関わりようとする意欲や、進んで学習に取り組む意欲、態度が見られる。	子どもの遊びや児童文化財について基礎的・基本的な知識・技術を使い、思考力を高め、適切に判断し、創意工夫する力を身に付けている。	子どもの生活や児童文化に関する技術を身に付けている。	子どもの文化や心身の発達に与える影響について、基本的な知識が身につき、理解している。				
評 価 方 法	目標を踏まえ、子どもの生活や児童文化に関する「関心・意欲・態度」については、日々の授業を中心に評価を行い、「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」は、定期考査やレポート、制作物を中心に評価を行い、総合的に判断し評価します。							
学 期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い				
1 学期	○子ども文化とは何か ・子ども文化とは ・子ども文化を歴史から見る ○子どもと遊び ・遊びと発達 ・遊びの現状 ・遊びと遊具・玩具 ・遊びと伝承 等 【実習】 ・壁面構成製作			・大人が与える文化環境と共に、子どもが主体の遊びを総合した子ども文化の重要性と意義について理解する。 ・遊びの意義と重要性及びその種類と発達とのかかわりについて理解し、遊び方や与え方、かかわり方などを具体的に考え、実践する。				
2 学期	○子供と表現活動 ・造る・描く ・言語表現活動 ・歌う、踊る、演奏する 等 【実習】 ・工作など造形物製作 ・表現活動の実践（絵本読み等）			・造形表現活動、言語表現活動、音楽・身体表現活動、情報手段などを活用した活動の意義について理解するとともに、児童文化財の重要性について理解し、製作・表現する力を身に付ける。				
3 学期	○子ども文化を支える場 ・行政による公的な支え方 ・民間企業による支え方 ・子供のための各種施設 等 【実習】 ・工作などの造形物製作			・児童文化施設などの種類や目的を理解し、有効な活用方法について考える。				
学 習 上 の 留 意 点	・実習は準備から片付けまで積極的に参加してください。							